

NY 市場レポート（前日 22 時 00 分～午前 6 時 30 分まで）

米国の主要な経済指標の結果

11 月 ADP 雇用統計 12.7 万人（予想 20.0 万人・前回 23.9 万人）

11 月の米 ADP 雇用統計では、2 ヶ月連続の鈍化で 2021 年 1 月以来の低い伸び幅となり、景気見通しが悪化する中で労働市場が減速し始めた可能性が示唆された。

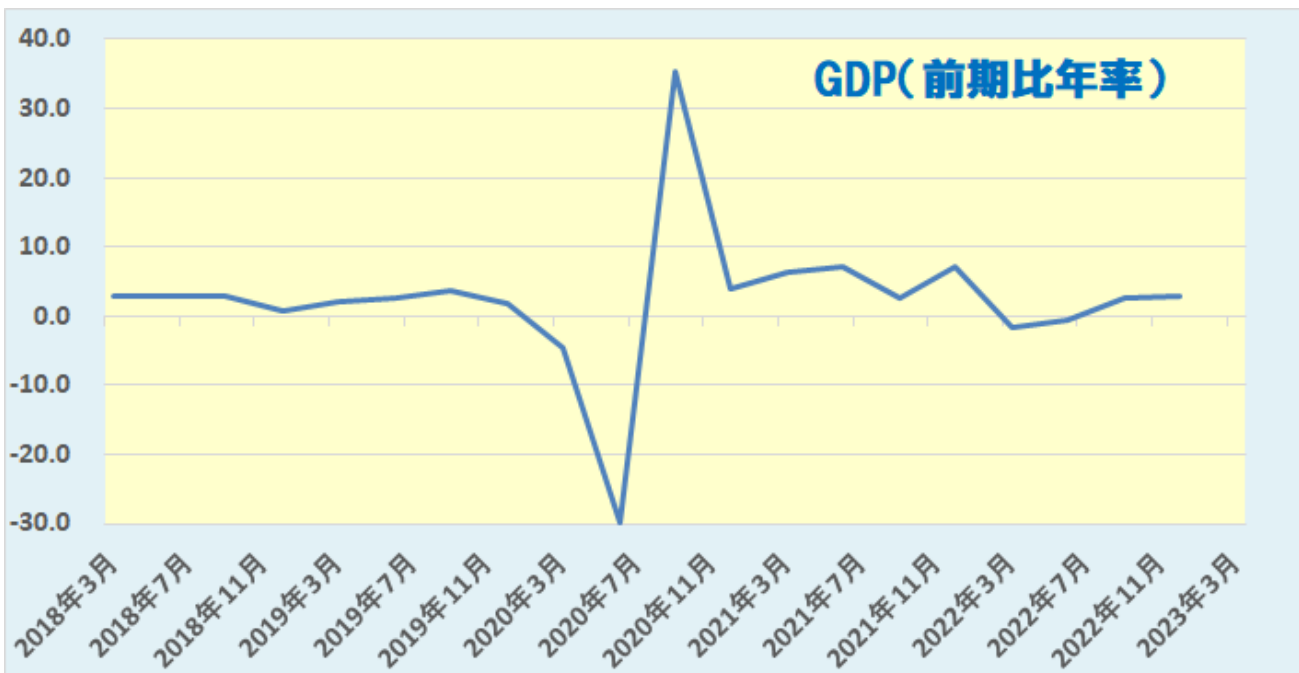


データを基に SBILM が作成

3Q GDP (前期比年率) 2.9% (予想 1.5%・前回 1.4%)

3Q 個人消費 (前期比) 1.7% (予想 2.8%・前回 2.6%)

7-9 月期の米 GDP 改定値は、速報値から上方修正され、3 四半期ぶりのプラス成長となった。個人消費や設備投資が上方修正されたことが影響した。4-6 月期までの 2 四半期連続のマイナス成長からは脱したものの、物価高騰や FRB の大幅な利上げなどが影響して米経済の先行き不安は高まっている。個人消費は+1.7% (速報 1.4%)、設備投資は+5.1% (3.7%)、また輸出が+15.3% (14.4%) 上方修正された一方、輸入は-7.3% (-6.9%) と下方修正された。



データを基に SBILM が作成

10 月中古住宅販売仮契約（前月比） -4.6%（予想 -5.0%・前回 -10.2%）

10 月中古住宅販売仮契約（前年比） -36.7%（予想 -35.2%・前回 -30.4%）

10 月の米中古住宅仮契約は、5 ヶ月連続の低下となった。住宅ローン金利が 20 年ぶりの高水準になったことや、住宅価格の高騰が引き続き影響した。地域別では、中西部が+3.3%となったものの、西部が-11.3%、南部が-6.4%、北東部が-4.3%と低下した。



データを基に SBILM が作成

米ダウ平均株価は大幅続伸、ナスダック、S&P500 は反発

米株式市場では、序盤から上値の重い動きが続いたものの、パウエルFRB議長が12月にも利上げ幅を縮小する可能性を示唆したことで米景気後退への懸念が和らぎ、主要株価指数は買いが優勢となった。特に、下落が続いたナスダックは前日比4%以上の大幅上昇となった。ダウ平均株価は序盤から軟調な動きとなり、一時前日比268ドル安まで下落した。ただ、その後は上昇に転じて上げ幅を拡大し、737.24ドル高(+2.18%)で終了した。一方、ハイテク株中心のナスダックは、484.22ポイント高(4.41%)で終了した。



データを基に SBILM が作成

セクター別変動率(ダウ平均)			個別の変動率(ダウ平均銘柄)		
	セクター	変動率		銘柄	変動率
1	テクノロジー	4.77%	1	マイクロソフト	6.16%
2	ヘルスケア	2.50%	2	セールスフォース	5.65%
3	通信サービス	2.40%	3	アップル	4.86%
4	消費財	2.10%	4	インテル	4.05%
5	資本財	1.67%	5	ビザ	3.80%

データを基に SBILM が作成

ドルは主要通貨に対して下落

NY 市場では、欧州市場の流れを引き継ぎ、ドル円・クロス円は序盤から堅調な動きとなった。序盤に発表された 11 月の ADP 雇用統計で雇用者数の伸びが市場予想を下回ったことを受けて、ドルは主要通貨に対して下落する場面もあったが、その後に発表された米第 3 四半期 GDP 改定値が市場予想を上回ったことからドルは堅調な動きとなった。上昇一服後は上値の重い動きとなり、さらにパウエル FRB 議長が講演で「早ければ 12 月に利上げペース緩める可能性」と指摘したことを受けて、ドルは下げ幅を拡大した。ドル/円は、序盤の安値 138.68 から 139.00 まで上昇したものの、終盤にかけて 137.65 まで下落した。欧州通貨や資源国通貨は対ドルで上昇したものの、対円ではドル/円の下落に連れて軟調な動きが続いた。



出所：総合分析チャート

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。